

第 1 回社会基盤専門委員会での主な意見

（景観）

- 住民から見た景観と、外から来た人が見る景観、それぞれの側からの意見等を加味したまちづくりを行わなければならない。一貫した観点でまちづくりの理念を持つことが面白いまちづくりにつながる。

（市街地）

- 「歩いて暮らせるまち」というスローガンはいいが、現実的に難しい。自転車の利活用について触れるべきである。

（空き家）

- 高齢者世帯が高齢者住宅に入居した場合、空き家が増加することになる。その空き家を担保として施設に入る（リバース・モーゲージ）、といったことを銀行等で行っているところがあるが、市としても何かできるのではないか。
- 人口減少により、現在約2,200棟ある空き家が今後27年間で1万棟の空き家が出るのではないかと脅威に感じている。これからは今までと全然違う次元で変化が起きると思うし、相続など問題がますます複雑化していると感じる。空き家問題は今後5年間で中心的な課題として取り組むべきである。
- 鶴岡市が研究し、データをランド・バンクにフィードバックしていただき、委員会等で話し合っていければと考えている。
- 20代・30代で結婚し新しい世帯ができたとき、3世代同居が難しくても、同じ地区に住みたい方はいるので、空き家を活用する方法としてつるおかランド・バンクを郊外地区へも展開していったらどうか。

（公園・緑地）

- 公園や緑地整備について、今後ボランティア等を増やしてはどうか。

（高速交通）

- あつみ温泉IC開通は非常に喜ばしいことであるが、（最終的に）新潟との早期全線開通を目指しているという共通認識は変わらない。引き続きお願いしていきたい。
- 月山道の高速道路の見通しについてはどうなっているのか。高速道路は繋がらないと効果は半減するといわれているので、引き続き要望していきたい。
- 高速交通網、特に空港について、東京の便数を増やすのは勿論であるが、国際チャーター便を今後増やしていくべきである。そのためには現在の庄内空港の2,000mの滑走路では狭すぎる。2,500~3,000mは必要である。しっかり要望していくべきである。
- 日浴道について、アクセス道路や利便性の問題、あつみICの構造等は地元でないと中々目が届かないところがあるので、地元の意見をしっかり吸収していただきたい。

（下水道）

- 鶴岡市ではまだ浄化槽の地域がある。最近の豪雨でそういった地域の道路側溝に水が溢れ、浄化槽から排出される水が逆流し、空気が押し戻され便器の蓋が動くといった現象が何カ所かで起こったと聞いている。浄化槽から公共下水道になる計画はどうなっているのか。

（港湾）

- 加茂港の整備や津波対策をすると海の景観を損なうのではないか。

（災害に強いインフラ）

- 今回の集中豪雨で土砂崩れや橋の損壊など各地に被害が出ているようだが、復旧や今後の整備に際しても、将来を見据えて取り組んでいただきたいと考える。

（高齢化の視点）

- 基本的な軸、全体的な問題点である「高齢化」「人命確保」というキーワードで、除雪や排雪の問題、老人が住みやすい住居の問題（高度規制）、老人の一人住まい世帯を掌握するシステムの構築（情報システムの活用）、福祉バス等の諸問題を考える必要がある。
- 山間地域が限界集落化しているため、環境保全の力も衰えている。また避難等の問題についても理念を持って対応しなければならない。